

## ＜産学連携＞ 学生が制作したロゴマークが企業に採用されました —学部横断型ゼミナール・プロジェクト—

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山崎哲哉）の授業「学部横断型課題解決プロジェクト」において学生が制作したロゴマークが、企業に採用されました。本授業では、学生が協力企業を調査・分析し、最終的には、CSR報告書の作成とより良い企業活動への提案を行っています。

今回、協力企業の株式会社井口機工製作所（以下、井口機工製作所）へロゴマークをデザインし提案したところ、同社より高評価を得て、採用となりました。同社はこれまで車用ターンテーブル、搬送部品ボールベア等の開発、製造及び販売といったB to B（企業間取引）事業を主力としておりましたが、近年一般消費者向け事業にも進出しており、このロゴマークが消費者向け商品の訴求に適しているとのことでした。ロゴマークは早速2つのショッピングサイトで使用されています。

### 採用されたロゴマークについて

#### ■制作のきっかけ

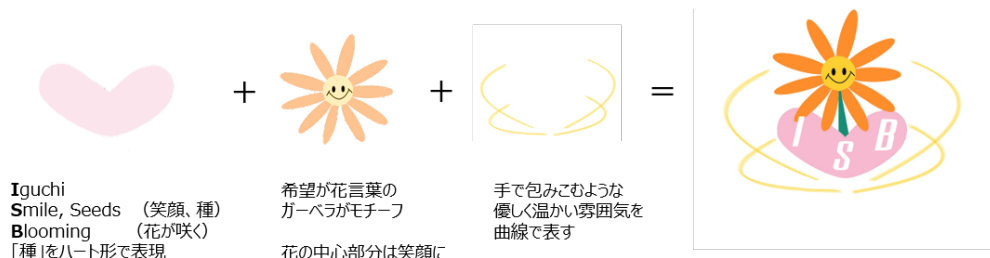
もともと井口機工製作所には、B to B製品に使用されているISB（Iguchi Strong Bearing）の3文字から構成されたロゴマークがあり、商品カタログなどで使用されています。しかし、一般消費者向け商品のチラシにはロゴマークが見当たりませんでした。そこで学生たちは、一般消費者向けの製品がもっと親しみやすく、たくさんの人に認知されるように専用のロゴマークを考えました。



ハートとガーベラを組み合わせた学生制作のロゴマーク

#### ■ロゴマークのコンセプト

「絶えまざる創造」と「こころをカタチに」をコンセプトにデザインしました。井口機工製作所の製品は、人に寄り添い、かつユニークなネーミングで、人を笑顔にさせるものが多いと感じました。そのあたたかさを表現するために、親しみやすいオレンジ色や黄色を使用しました。また、ISBのSをSmile, Seeds、BをBloomingとし、笑顔を咲かせる製品（笑顔の種）という意味を持たせ、種と花のモチーフを組み合わせました。人々を笑顔にする会社の製品（種）が「何年、何十年、何百年先も続くように」という私たちの願いも込めて提案しました。



#### \* 学部横断型ゼミナール・プロジェクトとは？

本学は、開学以来、少人数制で自ら調べ、自ら考える「ゼミナール」での教育に力を注いできた伝統がありますが、「学部横断型ゼミナール・プロジェクト」は、それをさらに発展させたものです。学生が各学部で身につけた専門性を応用して、企業のCSR報告書を作成し、企業担当者前で発表する産学連携型の授業です。異なる学部の学生がひとつのゼミで学ぶことで、横断的なアプローチによる課題解決の重要性を認識するとともに、社会で求められる「多様な視点」を身につけることを目的としています。

—本件に関するお問い合わせ先—

武蔵大学 広報室

TEL : 03-5984-3813 FAX : 03-5984-3727 E-mail : pubg-r@sec.musashi.ac.jp

2022年4月17日、武蔵学園は創立100周年を迎えます。



■武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。武蔵大学は、経済、人文、社会の3学部8学科からなる文系総合大学。一年次から4年間のゼミナールが必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えるこの年に、新学部となる国際教養学部を開設。

学長 山壽哲哉 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1